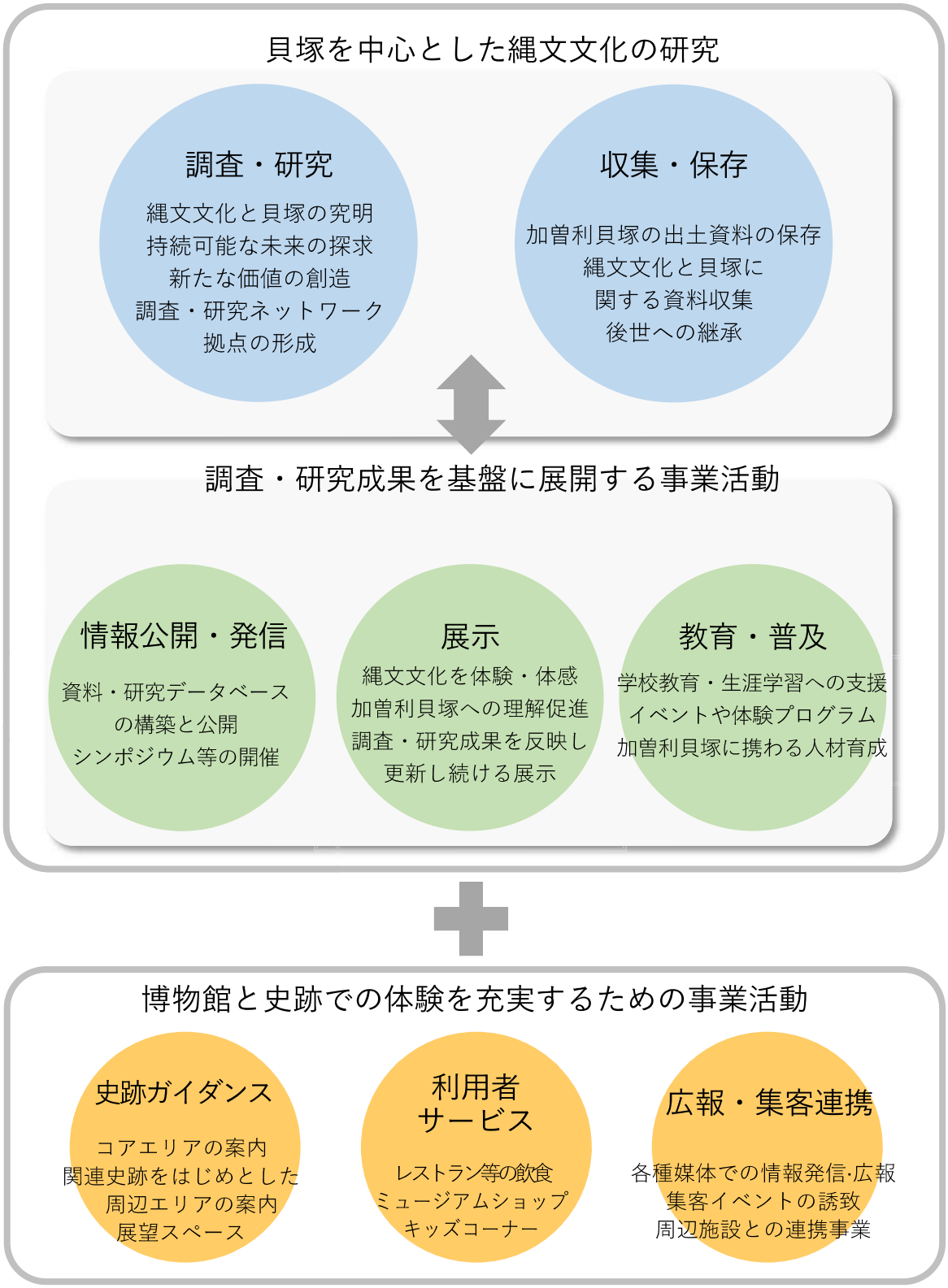
Ⅱ　事業活動計画

1　事業活動の全体像

「新博物館の基本方針」を実現するため、次の事業活動を展開します。

調査・研究と収集・保存を基盤とし、情報公開・発信、展示、教育・普及などの博物館の中核となる機能に加え、史跡のガイダンス、利用者サービス、広報・集客連携など、博物館と史跡での体験を充実させるための事業活動を行います。



2　事業活動の方針

新博物館では、次の方針に沿って、コアエリア全体をフィールドとした事業活動を展開します。

【事業活動の方針】

1．活発な調査・研究を行います

貝塚を中心とした縄文文化を解明するための施設と体制を備えるとともに、各分野との幅広い連携により研究ネットワークを築き、活発な調査・研究を推進します。

2．調査・研究のプロセスや最新の成果を素早く発信します

調査・研究の成果を世界に発信するとともに、その過程も紹介することで、来館者が興味を持って身近に触れられる場を設けます。

3．縄文時代の暮らしをまるごと体験する機会を提供します

最新の調査・研究成果に基づいて、縄文時代の空間を再現・演出し、来館者が当時の暮らしをまるごと体験する機会を提供します。

4．自ら学び、考える仕掛けを重視し、生きる力を育みます

体験や展示を通して知識を得るだけでなく、来館者が現代の暮らしの課題を解決するヒントや未来に活かせるよう、問いかけ・対話などの仕掛けやサポートを充実します。

5．誰もが気軽に集い、交流が生まれる空間を提供します

何度でも通いたくなるワクワクするような空間や体験を提供するとともに、誰もが気軽に集うことのできる、親しみやすく、居心地の良い空間を演出します。

3　事業活動の展開

（1）調査・研究

ア　基本方針

加曽利貝塚は、未発掘部分が９割以上を占め、縄文時代においてどのような位置を占めるのか、あるいは生業や拠点集落としてどのような機能を持っていたのかを明らかにすることが、今後の縄文時代の文化や社会に関する研究や新しい博物館の活動の方向を大きく左右します。

中長期的な計画の下で継続的に調査・研究を進め、その情報を蓄積し、さらに発信していくことが重要です。研究の中核を担うネットワーク拠点として、貝塚や縄文時代の史跡を有する自治体、研究機関や博物館などと連携し、縄文時代の文化や社会、貝塚の究明に向けた調査・研究、情報の収集・発信を行います。

また、縄文土器の製作技法の研究を推進し、その成果を土器づくりの体験学習や土器を使用した縄文料理づくりなどの体験学習プログラムとして全国に普及させてきたことも加曽利貝塚の特徴です。さらに、発掘された住居跡や貝層断面を保存し、展示する保存処理技術の開発研究におけるトップランナーとして重要な役割を果たしています。これらの現状や実績を踏まえ、持続的な調査・研究を推進します。

イ　研究の視点

（ア）加曽利貝塚の調査・研究

・加曽利貝塚における計画的な発掘調査の推進
・発掘調査の成果に基づいた、加曽利貝塚を営んだ集落社会の性格や特徴、全体像の究明
・加曽利貝塚の新たな価値を生み出す調査・研究

（イ）貝塚の調査・研究

・貝塚に関する情報収集、調査・研究の推進

（ウ）縄文時代の文化や社会に関する調査・研究

・縄文時代の文化や社会の究明に向けた調査・研究の推進
・調査・研究を通した、自然と調和・共存する持続可能な未来の探求
・実績ある実験考古学の継承・発展

ウ　研究テーマ

加曽利貝塚は貝塚で唯一の特別史跡であり、日本列島に残る縄文時代の貝塚のうち約４分の１が千葉県に集まっています。その地域的・歴史的な特性を踏まえ、東京湾岸の大型貝塚群を起点とした研究テーマを設定します。

さらに、新博物館の基本方針である「貝塚を中心とする縄文文化の解明の拠点」とし

ての活動を展開するため、専門研究の深化と諸分野との共同研究を推進し、日本列島の歴史の中で、さらには世界の歴史のなかで、加曽利貝塚を中心とした東京湾岸の大型貝塚の性格の解明を目指します。

エ　調査・研究型博物館としての推進体制

（ア）学芸員等による調査・研究

・新博物館に所属する学芸員が、調査・研究の中心的役割を担う

（イ）研究者等との共同研究

・国内外の大学、研究機関、企業などとの連携・交流や研究者の受入れ

・調査・研究活動への市民参画

（２）収集・保存

ア　基本方針

加曽利貝塚の発掘調査で出土した資料、縄文時代の文化や社会、貝塚に関わる調査・研究や展示に必要な資料を収集し、適切に保存します。

イ　資料収集

（ア）収集対象

・加曽利貝塚の発掘調査で出土した実物資料及び発掘調査記録

・縄文時代の遺跡や貝塚からの出土品などの実物資料

・縄文時代の文化や社会、貝塚の研究に必要な二次資料

（イ）収集方法

・加曽利貝塚の発掘調査

・他の研究機関や個人などからの寄贈・寄託・購入

・縄文時代の文化や社会、貝塚に関する情報収集

ウ　資料保存

（ア）分類・保存方法

・材質による分類（土製品、石製品、貝製品、骨角歯牙製品、木製品　等）

（イ）保存環境

・資料の形態・性質などに応じた適切な保存環境の確保

・重要文化財の保存への対応

・防災体制及び災害発生時の対応体制の整備

・防火防犯体制の整備

（３）情報公開・発信

ア　基本方針

調査・研究や資料収集の過程で得られた情報は、データベース等に整理して広く公開し、研究者や学生をはじめ、博物館の内外で利活用できるようにします。

また、研究の成果はシンポジウムや学術雑誌等で積極的に発信し、学術的な交流を深め、縄文時代の文化や社会、加曽利貝塚の価値を広く社会に伝えます。

イ　調査・研究成果の公開

・展示への反映
・研究の様子を来館者が見られる場や機会の提供
・シンポジウム、研究集会などの開催
・学術雑誌での論文発表
・研究紀要、博物館Ｗｅｂサイトなどへの掲載

ウ　資料の活用

（ア）一次資料の活用

・展示における公開・活用

（イ）二次資料の活用

・縄文・貝塚遺跡を中心とした発掘関連情報のデータベース構築
・分散して保存されている収蔵資料の情報を一元的に管理できるデータベース構築
・構築したデータベースを調査・研究、教育・普及等に活用できるよう公開

（ウ）図書の公開

・一般向けの図書の公開（開架書庫）
・研究用の図書の公開（閉架書庫、申請よる閲覧）

（４）展示

ア　基本方針

様々な興味・関心を持つ人々に対して、遊びや気軽な体験から本格的な学習や研究・体験まで、幅広いアプローチによる展示や体験を、館内から屋外まで史跡全体を活用して展開します。その内容は、調査・研究成果を反映した学術的な裏付けに基づき、常に更新し続けることを目指します。

イ　館内での展開内容

（ア）常設展示

・縄文時代の文化や社会、貝塚の性格、加曽利貝塚の価値や保存の歩みなどについて最新の調査・研究成果に基づき展示という形態で紹介
・主体的な思考や体験を重視した「探究」「没入」「対話」の三つの手法で展開
・季節や時間・距離等の制約がない多様な体験など、屋外では実施できない体験プログラムを実施
・縄文時代の暮らしを体験・体感することにより、縄文文化をとらえ直し、自然と調和・共存する持続可能な未来を考えるきっかけとする
・調査・研究成果を速やかに反映するとともに、体験プログラムの内容を定期的に変えるなど、幾度も訪れたくなる展示・体験

（イ）企画展示

・一定期間ごとに多様なテーマや広い視点で縄文時代や加曽利貝塚を多角的に学び、楽しめる企画展・特別展を展開し、リピーターの確保にもつなげる
・学芸員が行う調査・研究や共同研究、最新の発掘調査の成果の紹介をはじめ、常設展示の理解を深めるための展示
・市民による調査・研究の成果や、土器づくりなどの活動の成果発表など、市民からの提案に基づく展示
・芸術的観点からのテーマ設定、指定文化財の資料や注目を浴びた遺跡の展示など、縄文文化の魅力を伝えるための展示

（ウ）コレクション展示

・寄贈・寄託された日本全国の貝塚関連資料などを展示

（エ）導入展示

・来館者への問いかけ、シンボリックな資料の展示などにより、常設・企画・コレクション展示に興味を抱くきっかけを提供

【常設展示の展開案】

探究型展示「加曽利ラボ」 ～研究者になったつもりで、縄文時代と加曽利貝塚を深く探究～
出土した実物資料から究明された縄文時代の文化や社会、加曽利貝塚の生活誌について展示し、縄文時代や加曽利貝塚の特徴、これまでの調査・研究の歩みを伝える。 加曽利貝塚固有の物語を取り上げ、加曽利ムラに住んだ人々の生活誌や集落・生産の場・聖なる場・死者の場などの生活空間を探究する場とする。縄文人が地域の自然を活かした最適解を見つけ出し、他の地域とつなぐネットワークを構築して持続可能な社会を営んだことを紹介する。 また、来館者が調査・研究の一端を体験できるコーナーや学芸員の作業風景の公開などを通して、そのライブ感を伝えるとともに、没入型展示（縄文体験空間）や屋外での体験プログラムの根拠となった研究成果を詳しく説明するコーナーとしても位置付け、連動した活動を行う。
没入型展示「縄文体験空間」 ～縄文人になりきり、縄文の世界を楽しむ没入体験～
最新の調査・研究成果に基づき、縄文時代の加曽利ムラを再現した空間で、ムラの一員として縄文の暮らしを体験。時間や季節の移り変わりも演出する臨場感のあるエデュテインメント空間で、年齢や学習深度、興味等に応じて、屋外の史跡では体験できない多様なメニューを提供し、自然と調和・共存する持続可能な未来を考えるきっかけとする。 縄文人に扮した案内役のスタッフが実演や体験サポートを行うことで、安全かつ、充実した体験を提供し、可変的で特徴のある体験・交流の場を創出する。
対話型展示「未来ラウンジ」 ～縄文文化についての対話を通じて、未来へのヒントを得る～
縄文をテーマにした現代・未来志向の対話の場。展示や体験を通して学んだことをもとに現代と縄文時代の違いや共通点を考え、私たちの未来にとって大切なものを考えたり、縄文時代や現代をとらえ直すための体験プログラムを行う。 最新の研究成果も反映しながら、グローバルな視点で縄文時代の生活誌や縄文文化における自然と人間の調和・共存のシステムなどを取り上げ、対話を通じて理解を深めるとともに、豊かな生態系に基づく持続可能な人間社会の未来を考えるきっかけとする。また、オンラインによる館外への情報発信拠点としても位置付け、地域の学校や国内外の博物館等とつないだプログラムも開催する。

ウ　館外での展開内容（野外展示）

・特別史跡全体を展示物ととらえ、発掘調査・研究に基づく整備を実施

ゾーン	整 備 内 容
遺構保存ゾーン	遺構の露出展示など、発掘成果に基づく整備
公開活用ゾーン	復元集落の整備など、縄文時代の生活を再現
縄文植生ゾーン	縄文時代の生活に利用された植物を育成

・「遺構保存ゾーン」での本物の縄文にふれる体験の提供、「公開活用ゾーン」での縄文時代の生活再現、「縄文植生ゾーン」での衣食住に利用された植物の観察など、加曽利貝塚の現地でその環境を活かした体験プログラムを実施

・火を使った体験や自然環境を活かした体験など、館内では実施できない屋外ならではの内容を重視し、知識・技術の習得・実践につながる内容を実施

・屋内展示と野外展示とが一体的に体験・体感できる、フィールドミュージアムとしてのストーリーの構築

（５）教育・普及

ア　基本方針

展示を通じて生まれた来館者の興味・関心や理解をさらに深め、自発的な学習を支援します。来館者の多様な興味に対応できる教材やプログラムを、最新の研究成果を活かして開発します。また、学校教育や生涯学習の支援を積極的に推進し、地域の歴史や伝統文化に対する誇りや愛着を育みます。

運営にあたっては、新博物館の運営、加曽利貝塚の調査・研究、史跡保全などに参画するボランティアなどの人材育成を行い、多様な人々の交流を促進します。

イ　内容

（ア）学校教育・生涯学習の支援

・学校団体の来館の受入れ、案内、見学コースや体験学習などの提供

・カリキュラムに合わせた教材や授業案の開発、教員向け講座の開催

・市内の小・中学校、公民館などの社会教育施設、美術館や文化ホールなどの文化施設にスタッフを派遣し、出張講座を開催

・出土資料（レプリカなど）、ワークシートなどを含む貸出用キットの開発・提供

・博物館実習など大学との連携

（イ）コアエリア全体で展開する体験プログラムやイベントの企画・開催

・縄文文化を体験するプログラムの企画・開催

・新博物館や史跡において、来館者層を広げるための様々なイベントの企画・開催

・周辺施設を活用し、最新の調査・研究成果を活かしたシンポジウムや公開講座などの企画・開催

＜例＞　特別史跡加曽利貝塚を中心としたガイドツアー、貝塚の発掘体験、
縄文まつり、ナイトミュージアム、ナイトウォーク、縄文キャンプ、
物々交換マーケット、トークイベント、貝塚コンサート、野外シアターなど

＜これまでの実績例＞

縄文春まつり（石器による魚の解体ショー）

縄文春まつり（土器抽選会）

ナイトミュージアム（貝塚コンサート）

ナイトミュージアム（星空観察会）

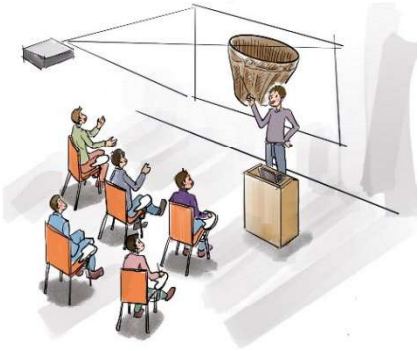
（ウ）人材育成

a　既存団体との連携

「ＮＰＯ法人加曽利貝塚博物館友の会」、「加曽利貝塚土器づくり同好会」、「加曽利貝塚ガイドの会」、「加曽利貝塚自然の会」、「坂月川愛好会」、「縄文の森と水辺を守る会」などの協力の下、様々な事業を展開するとともに、定期的な講習などを通じて人材を育成

b　新規スタッフの募集・育成

博物館の館内・館外での体験サポートや、文化財ＩＰＭにおける日常管理などを担う人材を募集・育成



（６）史跡ガイダンス

ア　基本方針

史跡見学の起点となるガイダンス機能として、加曽利貝塚に関する基礎的な情報に加え、来館者が縄文時代や加曽利貝塚について理解を深められるよう、コアエリア、関連史跡をはじめとした周辺エリアに関する利用案内や体験プログラムなどの情報を提供します。

イ　内容

（ア）コアエリアの案内

・はじめて訪れる利用者に対して、コアエリアの全体像を示し、回遊を促進する
・加曽利貝塚の価値や特徴など、概要の紹介
・加曽利貝塚の見どころ、所要時間別見学ルート、見学する上での注意事項などの案内
・史跡で開催しているイベント、体験プログラムなどの案内

（イ）関連史跡をはじめとした周辺エリアの案内

・周辺エリアに点在する史跡荒屋敷貝塚や史跡花輪貝塚などの縄文時代の遺跡、都川や海（ポートパーク）などの加曽利貝塚と関連の深い場所の紹介
・周辺エリアにおいて開催されるイベント、体験プログラムなどの案内

（ウ）展望スペース

・坂月川をはさんで特別史跡加曽利貝塚をはじめ市内を一望できる、展望スペースやテラスなどを設置

（７）利用者サービス

ア　基本方針

コアエリア全体の見学や体験をサポートする休憩や飲食などの利用者サービスの充実を図り、民間活力の導入を検討します。

イ　内容

（ア）レストラン等の飲食スペース

・史跡や博物館の見学者が気軽に利用でき、快適に過ごすことができる、満足度の高い飲食スペースの運営
・加曽利貝塚ならではのメニューなど、訪れてみたくなる飲食の提供

（イ）ミュージアムショップ

・来館記念となる商品や加曽利貝塚にちなんだオリジナルグッズ、博物館のテーマに関する書籍などを販売するミュージアムショップの運営

（ウ）キッズコーナー

・より幅広い年齢層をターゲットとするため、未就学児でも安心して保護者とともに楽しめるスペースを設置

（８）広報・集客連携

ア　基本方針

縄文時代や加曽利貝塚の価値と魅力を広く認知・理解してもらい、さらなる集客やリピート利用につなげるため、新博物館と加曽利貝塚のブランディングを推進し、新博物館のコンセプト「生きている縄文 学び、体験し、考える -それは未来への道しるべ-」に基づく一貫性のあるサービスの提供を図ります。

また、ブランド戦略を踏まえた広報により、サービス内容やターゲット層に合わせた的確な情報発信を進めます。加曽利貝塚ＰＲ大使「かそりーぬ」についても、引き続き新博物館や加曽利貝塚に関するＰＲ活動での活用を図ります。

さらに、様々な集客イベントの誘致や、周辺施設と連携することで、新たな来館者の獲得やリピーターづくりにつなげます。

イ　加曽利貝塚のブランディング

（ア）加曽利貝塚が提供する価値

・実益　：特別史跡で本物の発掘資料や貝塚の規模感などにふれる体験
・情緒　：縄文の暮らしを観察し、五感を研ぎ澄まして発見・共感する非日常体験
・価値観：縄文社会のライフスタイルや考え方、自然との共生のあり方を体験
・感性　：土器などの造形美や独特の文化・思想等にふれる体験

（イ）　サービス内容

・提供する体験価値のテーマは「発見」「研究」「想像」「共感」「創造」「学習」とし、これに沿って体験内容やイベント内容を企画推進する。
・体験価値を企画として顕在化させる際の手引きとして、ＳＤＧｓ、五感への訴求、多様性の尊重、継続性・日常性を促すことを意図した企画とする。

（ウ）ターゲット

・歴史・考古学の専門家やファンのみならず、普段、博物館や史跡を訪れる機会のない人々にも関心を持ってもらい、気軽に来てもらうためのＰＲ活動を行う。
・将来の縄文・考古学ファンを育て、加曽利貝塚が持続的・長期的に利活用されるために、子どもたちへのＰＲ活動も積極的に行う。

（エ）実施体制

・体験やイベントの企画開発にあたっては、「企画者」「指導者」「実施場所」「体験者」を明確に設定し、具体的で集客効果の高い企画づくりにつなげる。

・体験やイベントの運営は、市の直営だけでなく、民間事業者や地域団体の力を活用することを積極的に検討する。

ウ　内容

（ア）各種媒体での情報発信・広報

・博物館の存在や目的をはじめとする基本情報や、様々な事業活動、イベント等の取り組みを国内外に広く発信する広報を積極的に行う。

・ブランディングのターゲット層に情報を届けるため、広報はイベントや体験内容に合わせてふさわしいメディア、ＳＮＳ（ソーシャルネットワークサービス）などを効果的に活用する。

・利用者からの声も積極的に活動に活かしていくため、双方向の情報発信のあり方についても検討を行う。

（イ）集客イベントの誘致

・新博物館や史跡において、新たな加曽利貝塚のファンを獲得したり、未来のファン、サポーター、研究者を育成することを目指し、様々な集客イベントを行って、加曽利貝塚の認知度を向上させる。

（ウ）周辺施設との連携

・来館者を周遊させるために、近隣の遺跡や文化施設等と連携し、イベントや展示、入場料の割引などを実施

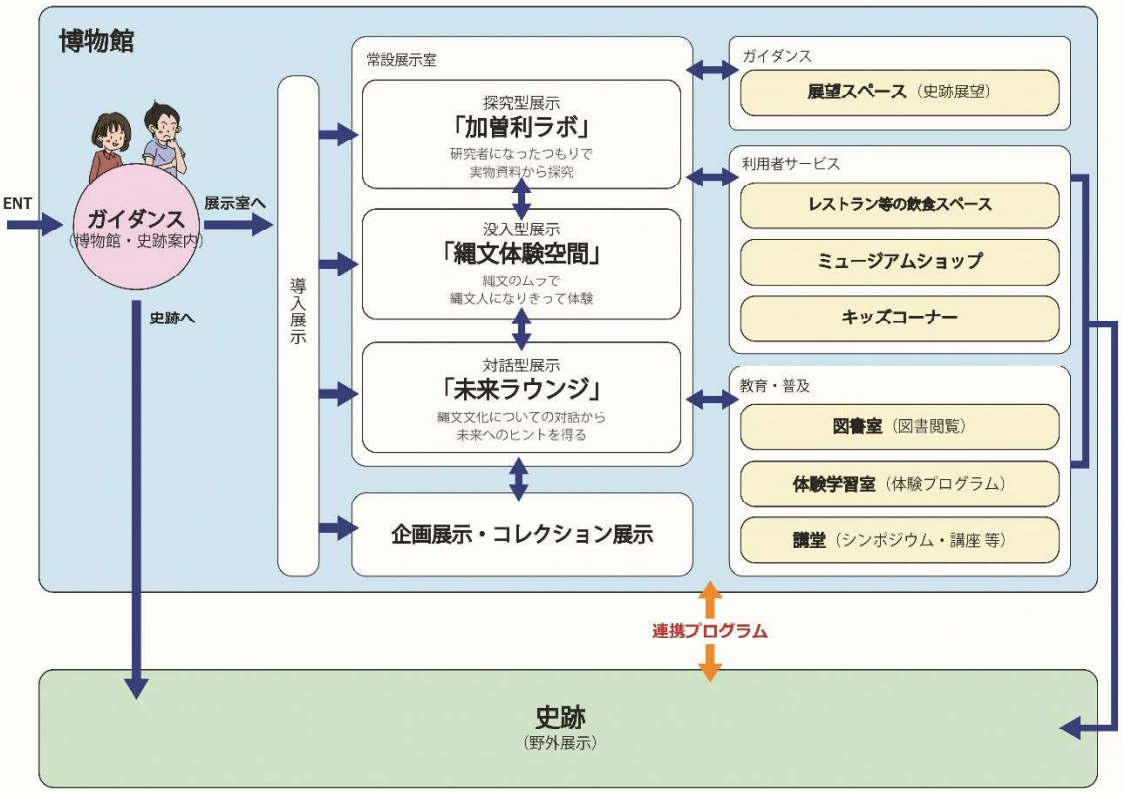
＜例＞　貝塚スタンプラリー、共通テーマの企画展の同時開催、
入場料の相互割引やセット券の販売など

4　利用者の見学・体験の流れ

利用者の属性や興味によって館内・史跡の利用場所や順路が異なることを想定し、様々な滞在のしかた、巡り方ができるように計画します。

ガイダンスを起点に、利用者が自由に見学・体験のコースを選択できるようにし、展示室と史跡のそれぞれで充実した体験ができる効果的なストーリーを構築します。

また、利用者サービス、教育・普及のプログラム等もあわせて、全体が相互補完的に連関する流れを計画します。



利用者の興味や利用形態ごとにどのような体験ができるかを具体的に想定し、推奨順路についても複数のバリエーションを計画します。

そのために必要な機能やサービスについても計画します。

※レストラン・ミュージアムショップ等は、適宜利用を想定

5　事業連携等による魅力向上のための取組み

（１）市内での連携

ア　コアエリア全体の情報拠点

コアエリア全体のインフォメーションセンターとして位置づけ、全体の概要やプログラムに関する情報を一元的に集約し、利用者に提供します。

また、Ｗｅｂサイト、ＳＮＳなどによる発信を行います。

・利用案内：館内及びコアエリアのマップ、見学時間、公開状況などを提供
・学術情報：加曽利貝塚に関する調査・研究成果を提供
・イベント・プログラム情報：コアエリア内で開催されるイベント、各種プログラムなどの開催情報やそれらの参加申込みの受付状況などを一元的に管理
・無料公衆無線ＬＡＮ（Wi-Fi）環境の整備

イ　関連施設との機能の分担・集約及び連携

市内にある関連施設と事業活動の役割分担や連携を進めます。

・千葉市立郷土博物館、千葉市埋蔵文化財調査センターとの役割分担・集約
・千葉県立中央博物館など近隣の博物館との連携
・公民館・図書館・生涯学習センターなど社会教育施設との連携

ウ　サテライト周遊ネットワークの全体像

・周辺エリアに点在する貝塚をはじめ、サテライトから新博物館、また新博物館からサテライトといった双方向性のある展示や学習機会、情報提供
・サテライトの周遊を促すため、縄文時代の文化や社会、貝塚に興味を持つ利用者に対する周辺エリアの見どころや利用案内、来訪に必要な交通手段などの情報提供
・コアエリアへの来訪を促進するため、市民や市内を訪れた人々に対する加曽利貝塚に関する情報発信
・国内外からの集客拡大のため、観光協会や民間事業者などと連携した、加曽利貝塚を中心にした観光プロモーション、ツアー商品の開発、情報発信

（２）県内の縄文遺跡及び博物館等との連携

縄文時代の貝塚を有する自治体の博物館等とともに東京湾東岸の貝塚遺跡群のネットワークを形成し、展示の共同開催や調査・研究、教育・普及活動等での連携を進めます。

（３）国内外の先史時代遺跡及び博物館等との連携

世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成遺跡をはじめ、国内外の先史時代遺跡や博物館等と連携し、縄文文化の価値と魅力を広く世界へ発信します。また、成田国際空港に近い利点を活かし、「縄文」の玄関口としてのＰＲ活動を推進します。